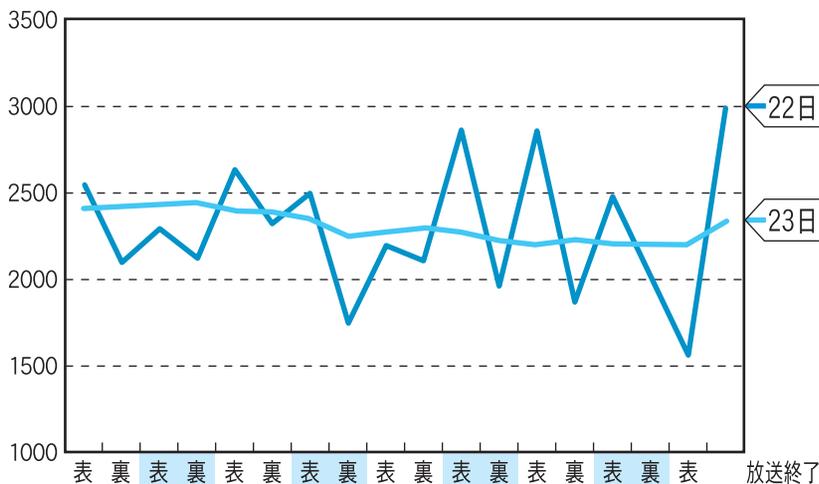


熱く感動した夏

—水道水の使用から見る、全国高校野球選手権大会決勝戦—

配水量 (m³/h)



	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
済美	2	3	0	0	1	3	0	1	0	10
駒大苫	1	0	2	3	0	3	3	1	×	13

今年には本当に暑い夏となりました。連日の猛暑の中、私たち苫小牧市民が最も熱く感じた日は、8月22日の全国高校野球選手権大会決勝戦だったのではないのでしょうか。

苫小牧市民が固唾を飲んで見守った、あの感動の試合の様子を、水道水の配水量で振り返ってみましょう。

水道の配水量が大変動

駒大苫小牧高校が、北海道初となる夏の全国高校野球選手権大会優勝を賭けて臨んだ、8月22日決勝戦、水道の配水量は期待と興奮で著しい変動を示しました。

攻撃後に配水量急増

水道の配水量が少ないということは、水道水があまり使用されていないこととなります。上の配水量のグラフから駒大苫小牧の攻撃時には配水量が減り、済美の攻撃時には増えていることがわかりました。

まず、駒大苫小牧の攻撃が始まった、一回の裏から減少がはじまり、逆転した4回裏には大きく落ち込みました。対象的に5回・6回駒大苫小牧の攻撃の後には大幅に増えています。特に6回の激しい攻防の後には一気に75m³増加しており、これは15000人の市民がトイレを使用した量に相当します。

優勝の瞬間に配水量が激減

試合終盤の8回からは配水量は減少を続け、北海道初となる全国高校野球選手権大会優勝を目前とした9回表、苫小牧市民がテレビ・ラジオを前にして固唾を飲んで注目した時、試合中最少となりました。



歓喜の優勝。苫小牧市が感動に包まれた。写真提供 朝日新聞社



津軽海峡を越え、北海道に初めて深紅の優勝旗が渡った

感動と勇気をありがとう!

テレビ放送終了後、配水量は大幅に増大し、翌日からは、いつもと変わらない配水量に戻りましたが、この夏の熱い感動は永遠に語り継がれることでしょう。

駒大苫小牧高校野球部の皆さん、大きな感動と勇気をありがとう。